

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 12 月 28 日 (2006.12.28)

【公開番号】特開 2005-201385 (P2005-201385A)

【公開日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)

【年通号数】公開・登録公報 2005-029

【出願番号】特願 2004-9179 (P2004-9179)

【国際特許分類】

F 1 6 H 25/22 (2006.01)

A 0 1 N 59/16 (2006.01)

F 1 6 C 19/02 (2006.01)

F 1 6 C 29/06 (2006.01)

F 1 6 C 33/62 (2006.01)

F 1 6 H 25/24 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 25/22 M

A 0 1 N 59/16 A

F 1 6 C 19/02

F 1 6 C 29/06

F 1 6 C 33/62

F 1 6 H 25/24 A

F 1 6 H 25/24 B

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 11 月 10 日 (2006.11.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外面に軌道面を有する内方部材と、該内方部材の軌道面に対向する軌道面を有し前記内方部材の外方に配置された外方部材と、前記両軌道面の間に転動自在に配設された複数の転動体と、を備える転動装置において、

前記内方部材及び前記外方部材の少なくとも 1 つを、銀、銀酸化物、銀が表面被覆された充填剤、及び、銀酸化物が表面被覆された充填剤のうちの少なくとも 1 つを含有する抗菌、抗カビ性樹脂で構成したことを特徴とする転動装置。

【請求項 2】

前記抗菌、抗カビ性樹脂は、銀、銀酸化物、銀が表面被覆された充填剤、及び、銀酸化物が表面被覆された充填剤の合計の含有量が、銀量（銀酸化物の場合は、銀酸化物中の銀原子の量）に換算して 0.2 質量%～2.0 質量%であることを特徴とする請求項 1 に記載の転動装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

本発明の請求項 1 による転動装置は、外面に軌道面を有する内方部材と、該内方部材の軌道面に対向する軌道面を有し前記内方部材の外方に配置された外方部材と、前記両軌道面の間に転動自在に配設された複数の転動体と、を備える転動装置において、前記内方部材及び前記外方部材の少なくとも 1 つを、銀、銀酸化物、銀が表面被覆された充填剤、及び、銀酸化物が表面被覆された充填剤のうちの少なくとも 1 つを含有する抗菌、抗カビ性樹脂で構成したことを特徴とする。

本発明の請求項 2 による転動装置は、請求項 1 において、前記抗菌、抗カビ性樹脂は、銀、銀酸化物、銀が表面被覆された充填剤、及び、銀酸化物が表面被覆された充填剤の合計の含有量が、銀量（銀酸化物の場合は、銀酸化物中の銀原子の量）に換算して 0 . 2 質量 % ~ 2 . 0 質量 % であることを特徴とする。